

ひ ら い て、むすんで

アーティスト・トーク〈手塚愛子×宮田明日鹿〉

参加費 無料

「閉じたり開いたり そして勇気について」

聞き手 | 今泉岳大(当館学芸員)

日時 | 4月13日(土)午後2時～3時30分

場所 | 当館1階セミナールーム 定員 | 50人

申込方法

- あいち電子申請(ネット申込)は当館HPから
 - はがきでの申し込み
はがき裏面に
参加者全員の郵便番号・住所・氏名・年齢(学年)・電話番号を記入の上、お申込みください。
※はがき1枚につき申込は1件まで。1度の申込みは2人まで。申込者以外の参加不可。
- 申込先 | 〒444-0002 岡崎市高隆寺町峠1 岡崎中央総合公園内
岡崎市美術館「ひらいて、むすんで展」イベント係

要事前申込
申込締切
3月15日(金)
必着

ワークショップ1

参加費 無料 申込不要

- ①「出張手芸部! in 岡崎」with 宮田明日鹿(本展出品作家) ... 4月28日(日)、6月15日(土)
- ②「破ったり、つなげたり描くことの不思議さを体験しよう」..... 5月5日(日)
with 三科琢美(本展出品作家)
- ③「コピー機を使ってつくるラミネート下敷」with 井口直人(本展出品作家) 5月18日(土)
- ④「ひとつ上をいく缶バッジ」..... 6月2日(日)

いずれも午後1時30分～4時30分まで随時開催

定員 | なし。当日混雑する場合は制限する場合がございます。

場所 | 当館1階ホワイエ

ワークショップ2

参加費 無料 申込不要

みんなでつくる! 毛糸をむすんでつなぐインスタレーション

来場者が継ぎ足してゆくことで増殖する、毛糸を使ったインスタレーションを館内に設置します。

日時 | 会期中随時開催

場所 | 当館1階ホワイエ

ギャラリートーク

参加費 無料 申込不要

※ただし、当日の観覧チケットが必要

日時 | ①4月29日(月・祝)、②5月25日(日)、③6月9日(日) 各日とも午後2時～
場所 | 当館1階展示室 担当 | 当館学芸員
(開始時刻までに展示室入口前にお集まりください)

テラシ表面 手塚愛子「閉じたり開いたり そして勇気について(1)」2023年 作家蔵

1. 村瀬恭子「Sherbet」2008年 当館蔵
2. O JUN「童子日光図」2002年 当館蔵
3. 真坂亮平「SHE LOST ONE OF HER PAIR OF DIAMOND EARRINGS IN THIS SPACE」2011年
4. 額田宣彦「M6/M12 mu480」2022年 作家蔵
5. ツァイ・チャウエイ「円II」2011年 森美術館蔵
6. 国島征二「Wrapped Memory-Bijutsutecho Jan.March,June 1969」1969年 当館蔵
7. 西村一成「不幸よ不幸、幸せか」2006年 作家蔵

展覧会カタログは5月下旬からの販売を予定しております

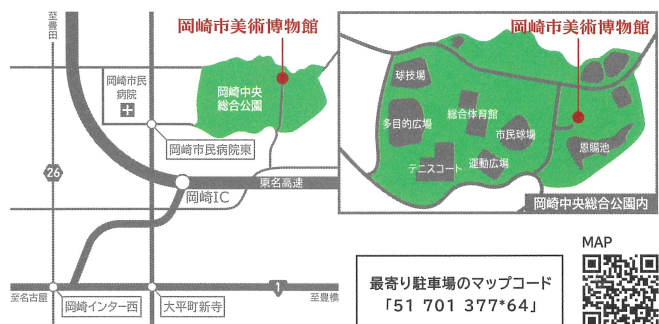
岡崎中央総合公園内

岡崎市美術館

〒444-0002 愛知県岡崎市高隆寺町峠1 岡崎中央総合公園内
Tel 0564-28-5000 / Fax 0564-28-5005 <https://www.city.okazaki.lg.jp/museum>

交通案内

バス/名鉄東岡崎駅(北)バス乗り場②番から「中央総合公園」行き乗車、「美術館」下車、徒歩5分
お車/東名高速道路「岡崎インター」から約10分 タクシー/名鉄東岡崎駅から約15分、JR岡崎駅東口から約25分



最寄り駐車場のマップコード
「51 701 377*64」

当館は開館した1996年当初より「心を語るミュージアム」として、心を伝え、心の作用がつくり出した作品資料の収集や展示活動を行ってきました。このコンセプトは20世紀末であった当時の過剰な物質文化の追求を反省し、精神文化とのバランスを問い直そうとする態度から生み出されたものでした。

現代では多様な人が暮らしやすく、またサステナブルな在り方が追求されている一方で、私たちの心は疫病や災害、国際情勢や景気変動により、寄り添えない舟のように揺れつづけています。私たちが文化的で豊かに生きるには、改めて「心を語る」ことに向き合う必要があるのではないのでしょうか。

私たちが自分を語るとき、自分の全てを他者に伝えるのは不可能であるため、選択や省略、場合によっては誇張や変形といった編集作業を加えます。それは、様々な場面で振る舞いが異なる自分の断片を繋げて、ひとりの人物として一貫させるように創作することです。自分を語ることは、自分の断片を「むすぶ」と同時に、語ることで自分を「ひらく」表現であると言えるでしょう。

ベルリン在住の美術作家である手塚愛子は絵画の探求から織物に着目し、その糸を解体することで織られた時間を辿りながら、文化や社会制度の歴史と構造に目を向けます。彼女は織物を「ひらく」ことで再構成し、過去の出来事と現在を織りなおして新たな回路に「つなぐ」ことを視覚的に表現します。本展は「ひらく」「むすぶ」という視点から絵画や彫刻、映像やインスタレーションなど22名の美術作家による作品を紹介するものです。

作品の声を聞き、「心を語る」ことを考える機会となれば幸いです。

